

# ○こども環境学会2023年定期大会(沖縄大会)

■こども環境学会2023年大会(沖縄) ■テーマ:地域に生きるこども

■日時:2023年7月7日(金)~7月9日(日)

■会場:アイムユニバース てだこホール(沖縄県浦添市仲間1丁目10-7)

■内容:

7月7日(金) エクスカーション

7月8日(土)~9日(日) 開会式、基調講演、ポスターセッション、分科会など

その中で、7月8日13:20-14:50のポスターセッションで、「子ども中心の地域づくりに求められるリエゾンとは」というテーマで発表した。

発表者 「地域の色・自分の色」研究会

代表 照山龍治(事務局 塩月孝子)

## ①開会式

五十嵐会長

小児科医、ウェルビーイングは「真の幸せ」と考えている。

仙田代表理事

2004年に設立。「子どもの総合的な良い環境づくり」を目指した。

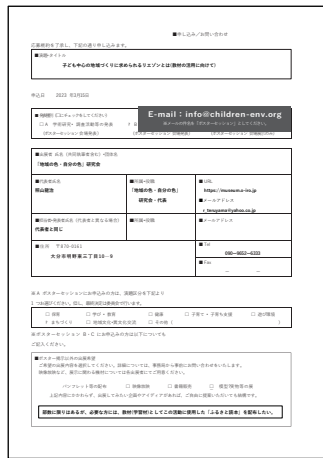
こどもたちのために、何をすべきかを議論して欲しい。

松本浦添市長

「遠いところ」という映画が完成した。これも参考に、沖縄について、今一度、考えて欲しい。

清水実行委員長

「てだこ」は、琉球王のこと、浦添は、「てだこ」の子ということ。この折に、沖縄社会の実態、課題を考えて欲しい。講演では、沖縄で生まれ現在、沖縄で子どもたちのために努力している方たちからお話をいただきます。



## ②基調講演

○こどもネットワーク山内代表

子どもの視点から本土復帰後50年を振り返る

こどもの貧困問題について、沖縄県の戦後史と児童福祉法の概要から展開。沖縄県は6年遅れで施行。基地問題から青少年非行へ。児童館と母子寮についても。

○大城元児童館館長

地域と子ども

沖縄の地域の実態と沖縄の子どもの遊びについて紹介した。

### ③ポスターセッション

「あそび環境」「保育」「子育て・子育て支援」「学び・教育」「健康」「関係性デザイン」「まちづくり」などの8部門で同時に進行した。

私たちの発表は、「関係性デザイン」のブースに約四十名(ほとんど大学関係者)の参加者を迎えて、発表した。

その中で、希望者には、実践記録「ふるさとのいろあそび」と学習材「続ふるさとのいろあそび」、ポストカードを研究資料として提供した。

#### 説明概要

今回は、「子ども中心の地域づくりに求められるリエゾンとは」という切り口で、研究会の活動について発表する。

私たち研究会のメンバーは、これまで、いろんな職場や地域で、同じような地域課題を体験してきた。

それは、子どもたちや地域の人たちが、あまりにも、地域の自然や歴史文化に関心がない。知らない。ということである。

これでは、地域教育、地域創生など、どれもうまくいかないと思った。

その中で、大分県にも、いくつか、成功事例があった。

豊後高田市の町ぐるみ教育。湯布院の観光による街づくり。世界農業遺産などである。

その実態をよく見ると、全て、特定のグループが理念と目標を共有し、地域を巻き込み、子ども中心「地域ぐるみで」、地域に関心を持ち、地域を知り、地域資源を掘り起こし、活用するという取り組みの結果だった。

そこで、私たちは、2014年度に、この研究会を立ち上げた。

その後、2020年度には、別府地域を拠点にして、「色」を通して、自然や歴史・文化から「ふるさとのたからもの」を「見つける」入門教材「ふるさとのたからもの」を作成し、小学校や幼稚園で検証実践も行った。



その中で、「身近な教材と実体験が、学校ぐるみ、家族ぐるみになる」ということが見えてきた。

さらに、大学や教育委員会も入れた授業研究会では、「教材づくり」と、「学校と地域を繋ぐ仕組みづくり」が必要だ。という提言もいただいた。

そのため、2021年度に、子どもたちが不思議と捉えたことを、「色」の違いや変化から、解き明かす探究教材「ふるさとのふしぎ」と、幼稚園での実践記録「ふるさとのいろあそび」を作成した。

これらの教材は、図書館や学校に置いて、アンケート調査も行った。その中では、「ふるさと学習に有効」とか、「授業に活用できる」などという評価の一方で、「学校・家庭・地域の連携には、もうひと工夫必要」というご指摘もあった。

一方、血の池地獄に設置した「こども『色』博物館」では、県内外の方々から、「こんなことが出来る貴方たちがうらやましい」とか、「地域資源を見直した」などという162件の励ましの言葉をいただいた。

そのため、2022年度には、市町村の垣根を超えて、別府と国東の小学校で、実践と交流授業を行い、それを踏まえて、「故郷の宝物」を確かなものにする学習材「ふるさとのだいち」を作成した。

そして、2023年度には、色あそびの手引き書「続ふるさとのいろあそび」を作成して、学習コンテンツに、動画も加えてみた。

このような活動の中で、「子ども中心の地域づくり」に向けて、いくつかの課題が浮き彫りになった。

まず、地域では、「学校との繋がりが無い」ということ。

学校や幼稚園では、「地域教材の活用方法がわからない」「適切な教科書が無い」ということ。

行政は、「学校主体」として、学校任せということである。

つまり、地域と学校は、異なる価値観と一定の距離感を持っていて、そのままでは、連携が難しいということである。

そのため、私たちは、「子ども中心の地域づくり」には、学校と地域を繋ぐ「リエゾン」が必要と考えている。

教職員や行政職員など、多様な経歴を持つメンバーが、価値観の異なる学校や地域を繋いで親和させ、反応を促進させる。その一方で、組織内に溜まる想いや矛盾は、意見交換で馴染ませる。

このような仕組みにより、私たちは、今後とも、作成した教材・学習材と、掘り起こした地域資源、ホームページを活用しながら、求められるリエゾンを目指して、活動を続けていく所存である。

#### ④学会での評価

「色」を教育に活用するという視点はこれまでなかった。ポスターセッションでは、なかなか会員や皆さんの理解が得られないと思う。そのため、論文などにまとめて、詳しく、広く紹介してほしいと思っている。

